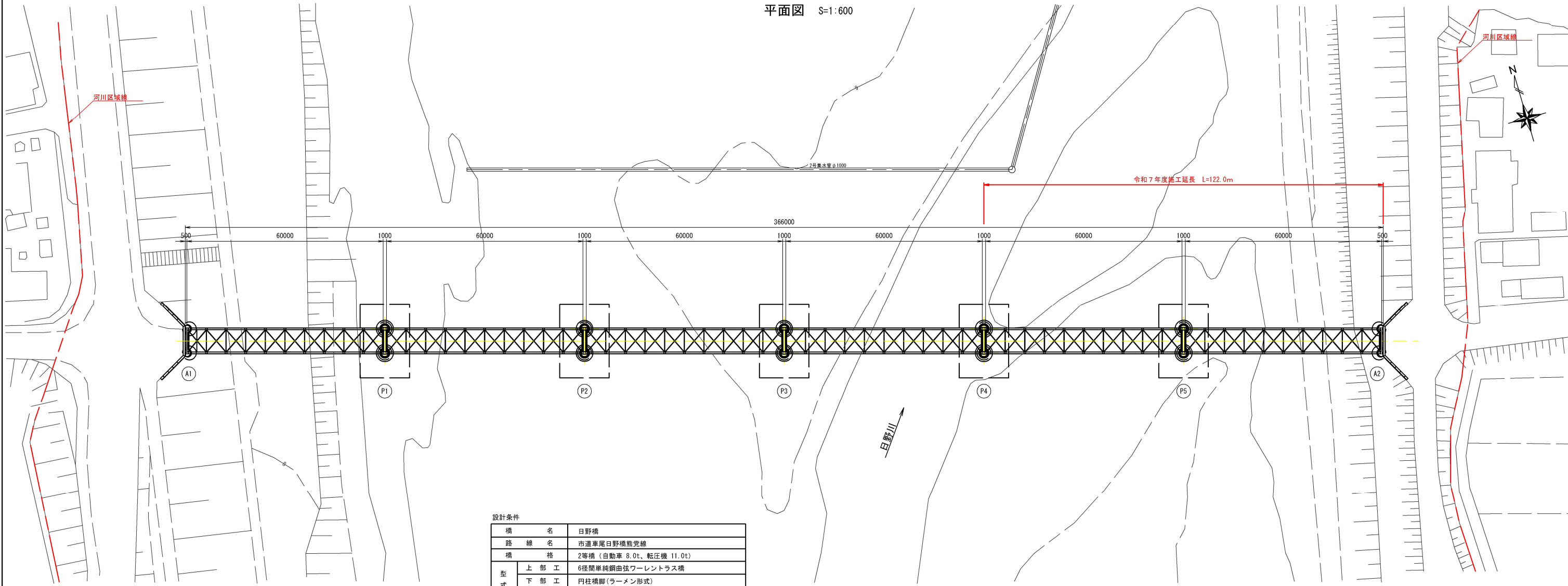
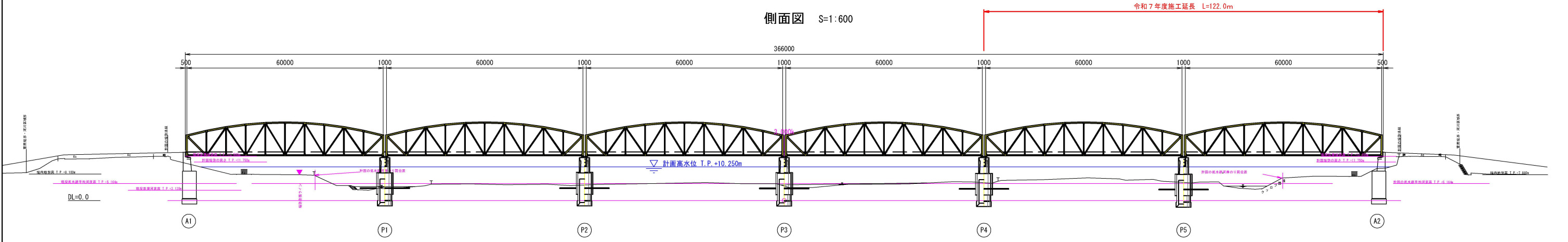


橋梁一般図(その1)



設計条件		
橋 名		日野橋
路 線 名		市道車尾日野橋熊荒線
橋 格		2等橋 (自動車 8.0t、軽圧機 11.0t)
型式	上 部 工	6径間単純鋼桁ワーレントラス橋
	下 部 工	円柱橋脚 (ラーメン形式)
	基 礎 工	ケーソン基礎
橋 長	366.0m	
支 間 長	6@60.0m	
幅 員	0.25+6.25+0.25=6.75m	
斜 角	90° 00' 00"	
平 面 線 形	R=∞	
設 計 震 度	KH=0.14 (基準震度)	
竣 工 年	1929年 (S4年)	
適 用 示 方 書	道路構造に関する細則案 (1926年)	

注記

- 補修図は竣工図のヤード・ポンド法単位をSI単位に換算している。現地寸法と異なる可能性があるため、現地確認を行い整合性を確認すること。
- 補修対象箇所・内容は令和3年度点検結果を基にした想定であり、一部以外の詳細調査は実施していない。施工前に損傷状況・形状寸法調査を行ない、監督職員と協議の上、補修要領図を元に補修内容を選択し補修寸法等を設定すること。
- 河川断面の日野川の「直轄河川日野川水系日野川管理基礎断面8」No. 3.000 k の断面を示す。

日野橋 (車尾日野橋熊荒線)	
図面番号	第 14 枚内 1 号
図面名称	市道車尾日野橋熊荒線日野橋 橋りょう補修工事 (その2) 橋梁一般図 (その1)
縮尺	図尺 (A2縮は表示縮尺の1/2に縮小表示)
製図年月日	令和 年 月 日
変更年月日	令和 年 月 日
米子市都市整備部道路整備課	

橋梁一般図(その2)

下部工断面図 S=1:100

上部工断面図 S=1:100

橋台

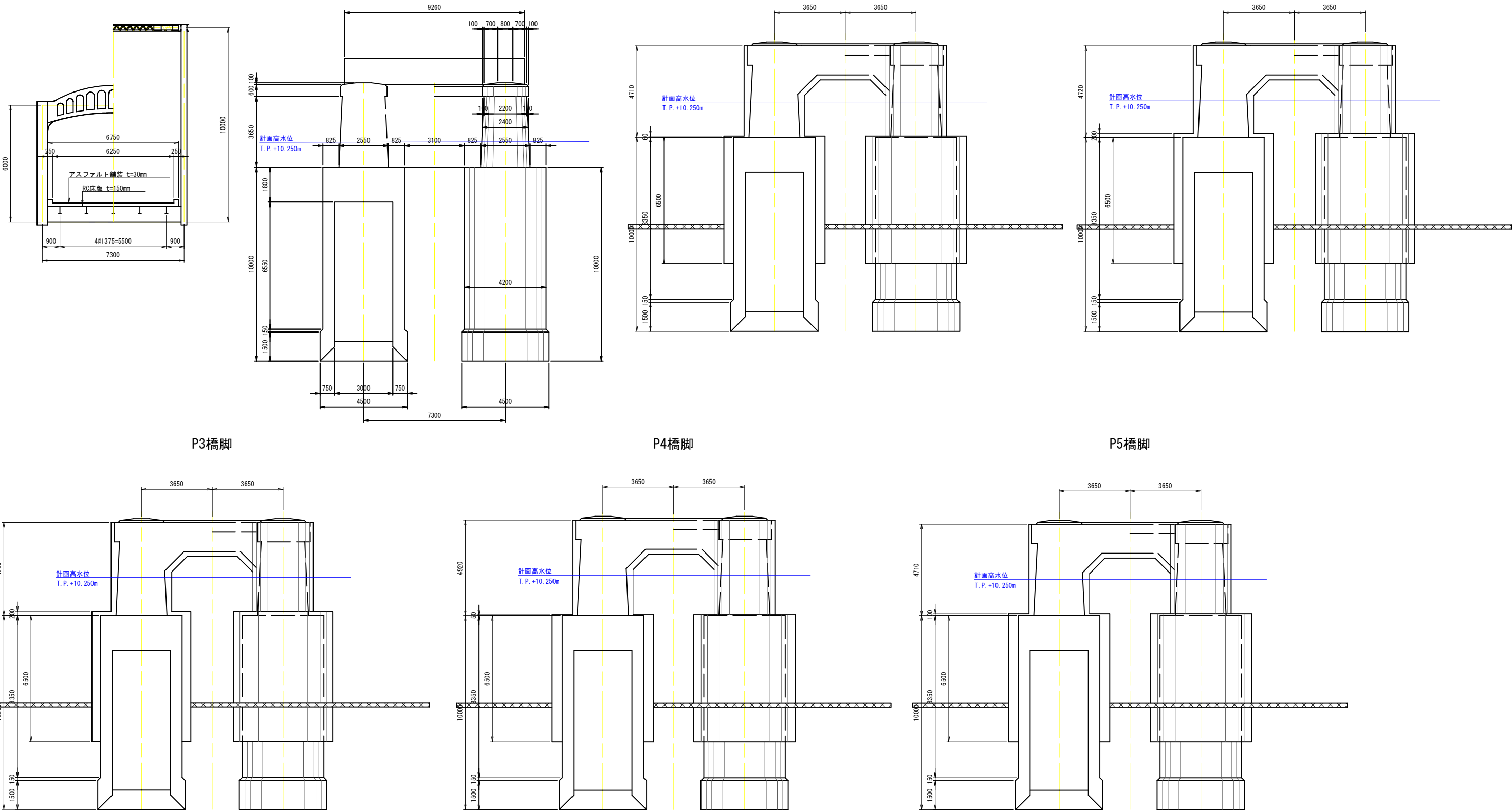
P1橋脚

P2橋脚

P3橋脚

P4橋脚

P5橋脚



注記

1. 補修図は竣工図のヤード・ポンド法単位をSI単位に換算している。
現地寸法と異なる可能性があるため、現地確認を行い整合性を確認すること。

2. 補修対象箇所・内容は令和3年度点検結果を基にした想定であり、一部以外の詳細調査は実施していない。
施工前に損傷状況・形状寸法調査を行ない、監督職員と協議の上、補修要領図を元に補修内容を選択し補修寸法等を設定すること。

3. 河川断面は日野川の「直轄河川日野川水系日野川管理基横断面8」No. 3,000 kの断面を示す。

日野橋（車道日野橋既設線）	
図面番号	第 14 枚内 2 号
図面名称	市道車道日野橋既設線日野橋 橋りょう補修工事（その2） 橋梁一般図(その2)
縮 尺	図示（A3版は表示縮尺の1/2に縮小表示）
製図年月日	令和 年 月 日
承認年月日	令和 年 月 日
米子市都市整備部道路整備課	

補修一般図(その1)

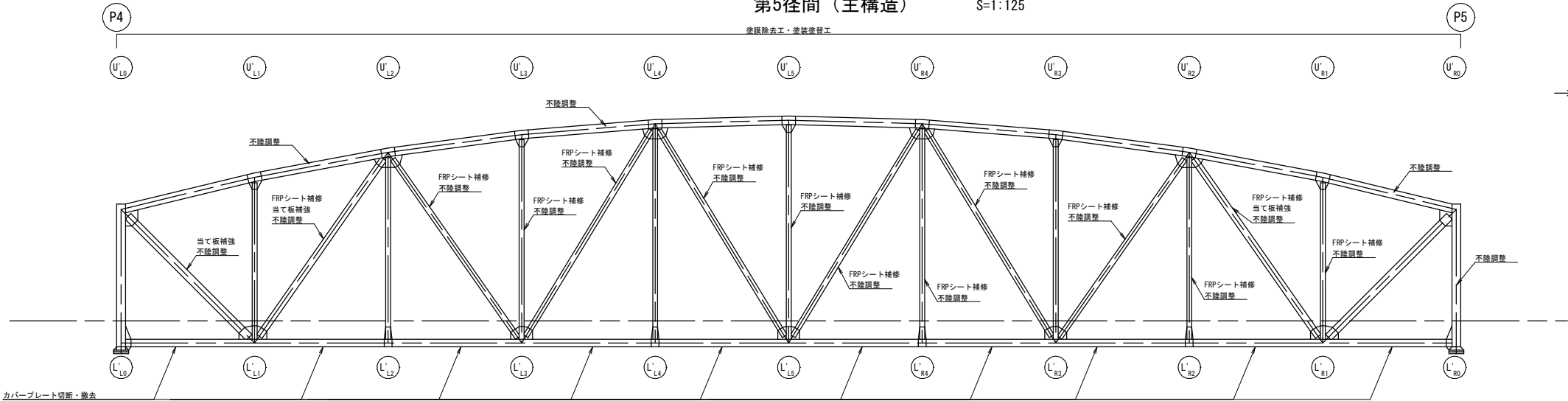
第5径間 (主構造)

S=1:125

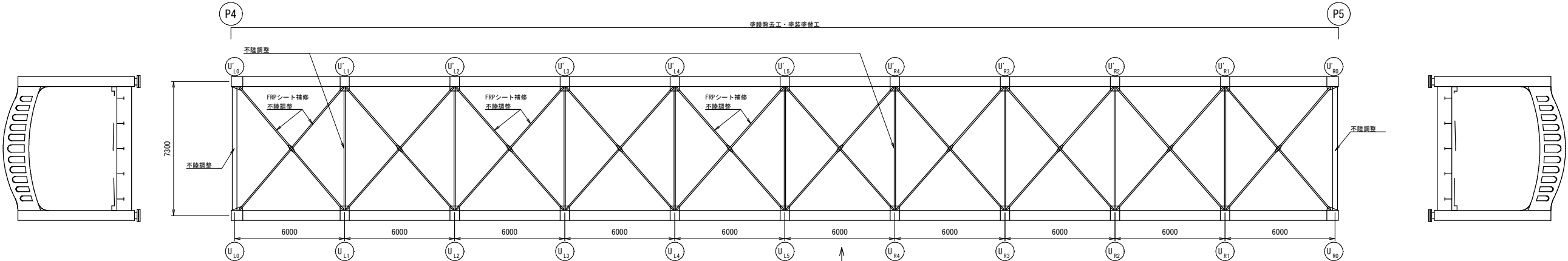
至 車尾 ←

→ 至 熊党

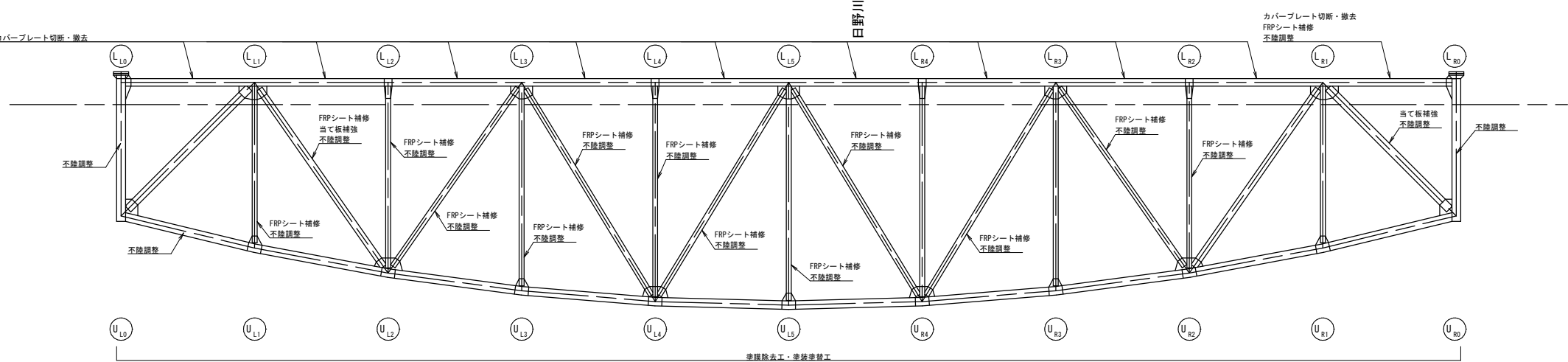
下流側主構側面



主構上面

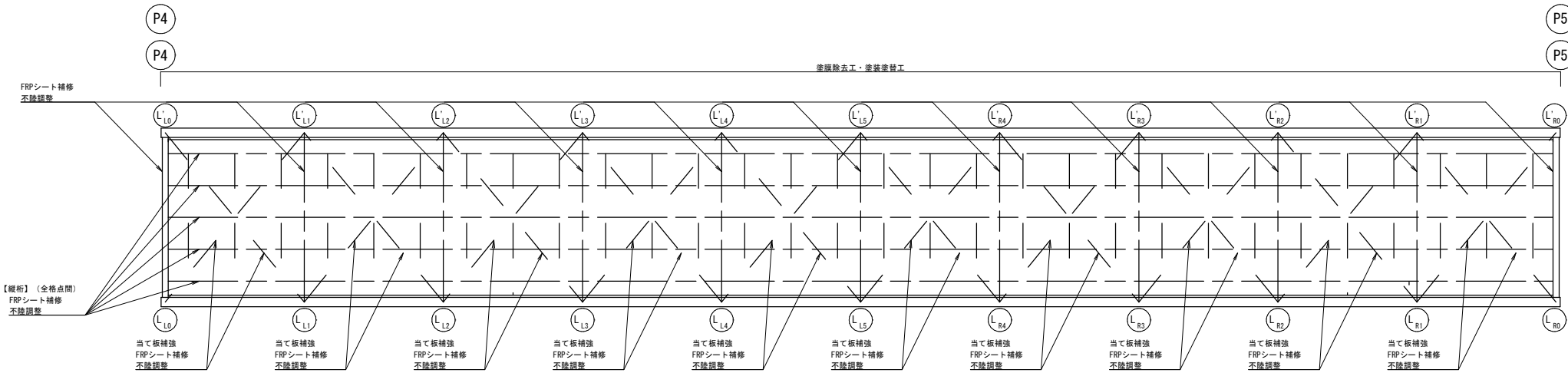


上流側主構側面



塗装塗替工 A=2,605.0㎡
当て板補強工 A=7.5㎡
FRPシート補修 (区分A) A=7.9㎡
FRPシート補修 (区分B) A=6.5㎡
FRPシート補修 (区分C) A=17.8㎡
カバープレート切断・撤去工 L=240.0m

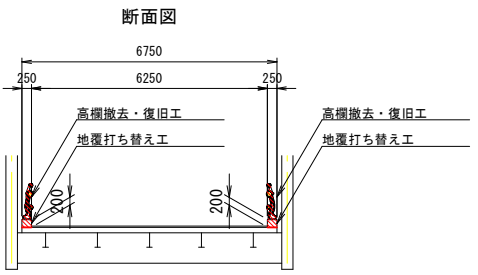
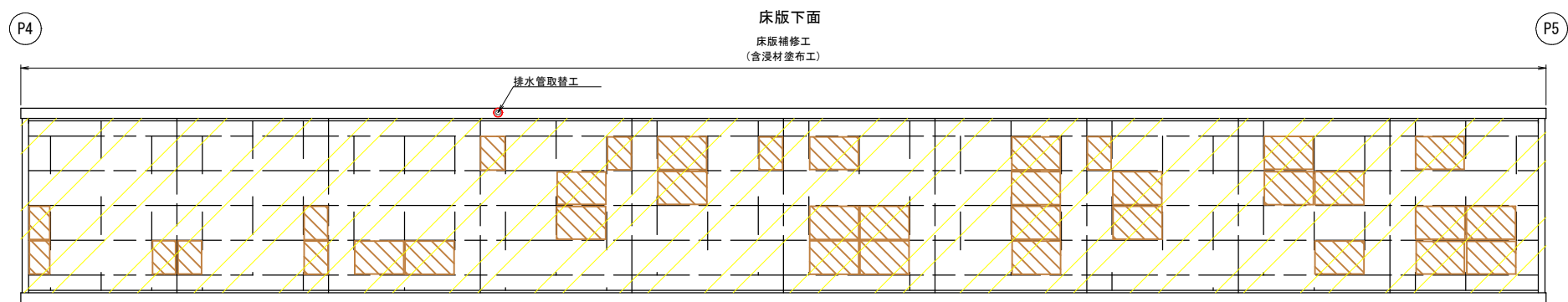
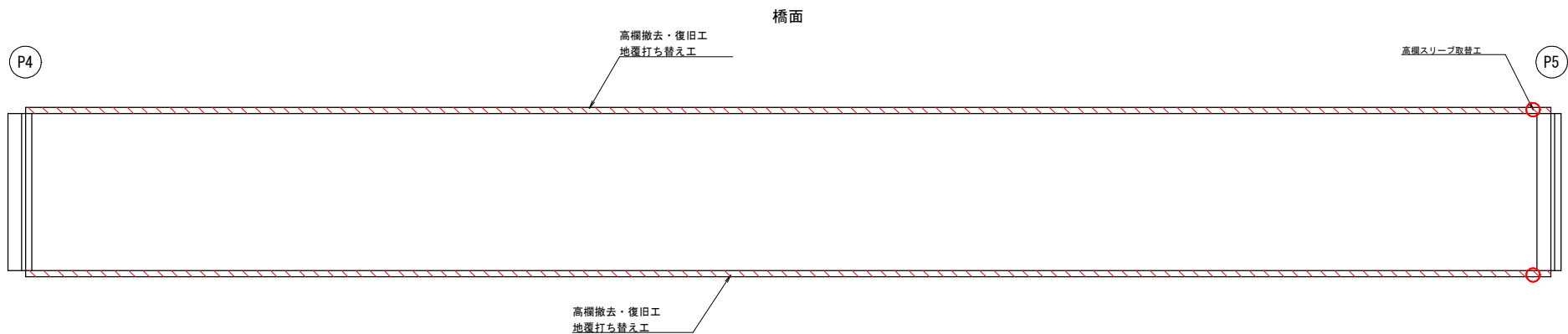
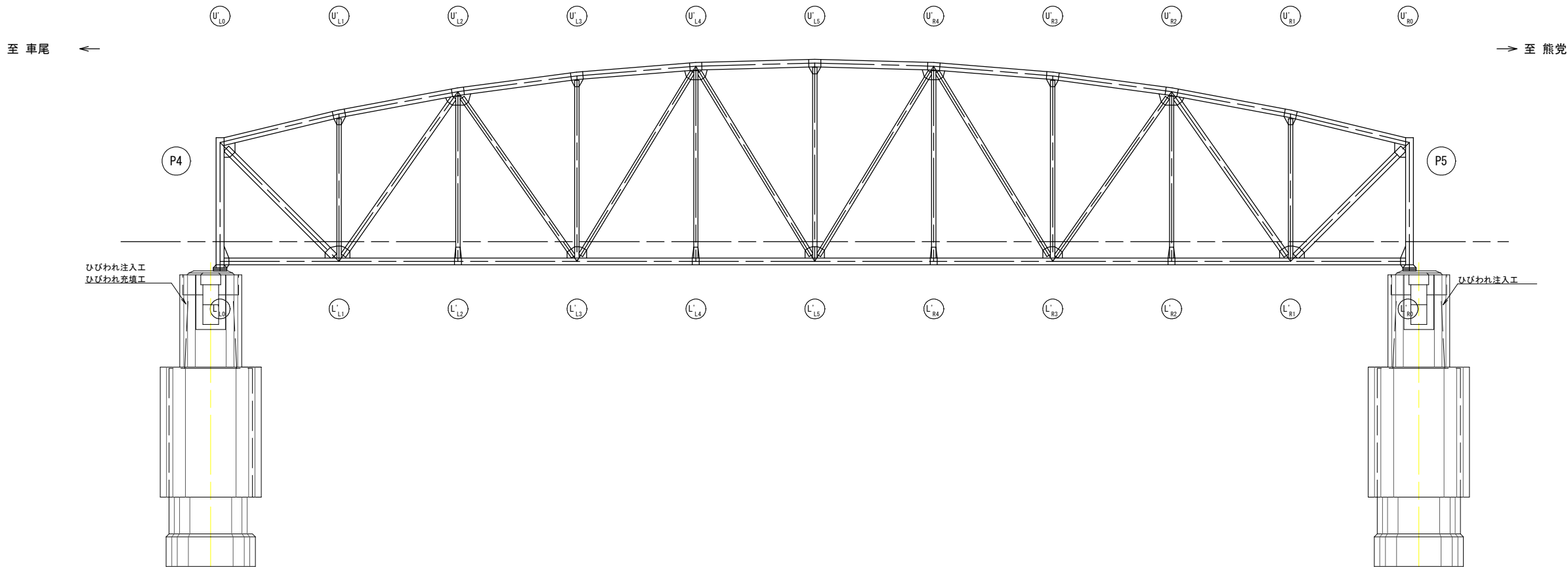
主構下面



- 注記
- 補修図は竣工図のヤード・ポンド法単位をSI単位に換算している。現地寸法と異なる可能性があるため、現地確認を行い整合性を確認すること。
 - 補修対象箇所・内容は令和3年度点検結果を基にした想定であり、一部以外の詳細調査は実施していない。施工前に損傷状況・形状寸法調査を行ない、監督職員と協議の上、補修要領図を元に補修内容を選択し補修寸法等を設定すること。

日野橋 (車尾日野橋既設線)	
図面番号	第 14 枚 内 3 号
図面名称	市道車尾日野橋既設線日野橋 橋りょう補修工事 (その2) 補修一般図 (その1)
縮 尺	図示 (A3版は表示範囲の1/2に縮小表示)
製図年月日	令和 年 月 日
承認年月日	令和 年 月 日
米子市都市整備部道路整備課	

補修一般図(その2)
第5径間 (下部工・橋面・床版)



高欄撤去・復旧 L=122.0m
表面含浸材塗布工 A=327.7㎡
断面補修工 (上部工) A=4.35㎡
ひびわれ補修工 (注入工) L=28.1m

注記
1. 補修図は竣工図のヤード・ポンド法単位をSI単位に換算している。
現地寸法と異なる可能性があるため、現地確認を行い整合性を確認すること。
2. 補修対象箇所・内容は令和3年度点検結果を基にした想定であり、一部以外の詳細調査は実施していない。
施工前に損傷状況・形状寸法調査を行ない、監督職員と協議の上、補修要領図を元に補修内容を選択し補修寸法等を設定すること。
3. 鋼板接着範囲は床版補修工の対象から除外すること。

塗装塗替工(鋼板接着範囲)
床版補修工(含浸材塗布工)

日野橋 (車尾日野橋熊党線)	
図面番号	第 14 枚内 4 号
図面名称	市道車尾日野橋熊党線日野橋 橋りょう補修工事 (その2) 補修一般図 (その2)
縮 尺	図示 (A3版は表示範囲の1/2に縮小表示)
製図年月日	令和 年 月 日
写図年月日	令和 年 月 日
米子市都市整備部道路整備課	

補修一般図(その3)

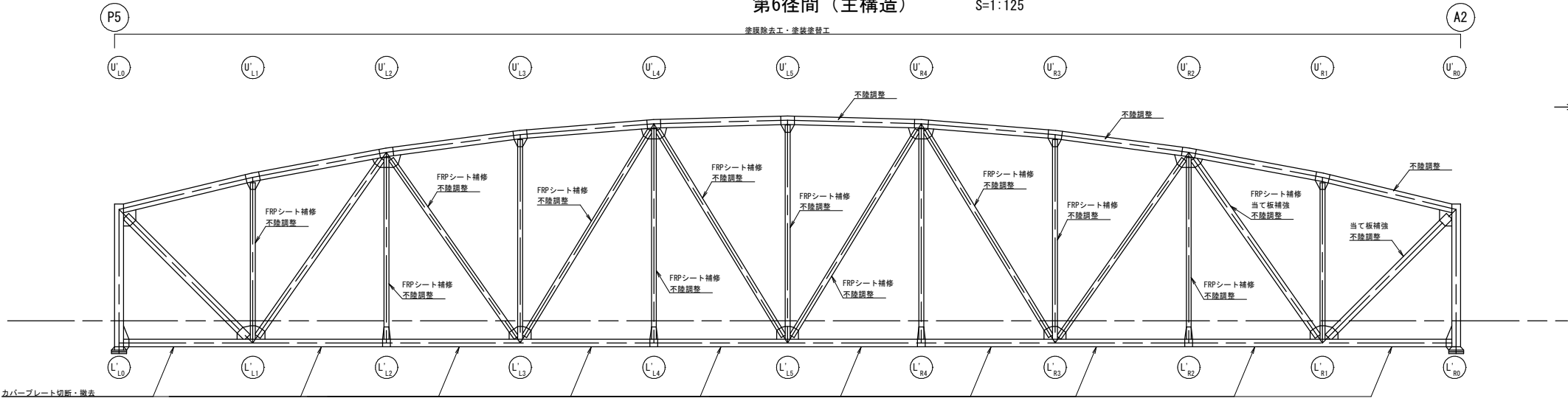
第6径間 (主構造)

S=1:125

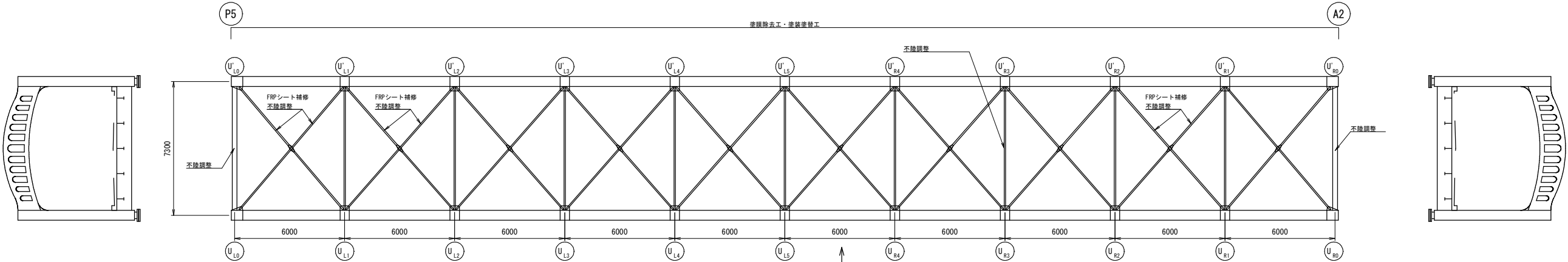
至 車尾 ←

→ 至 熊党

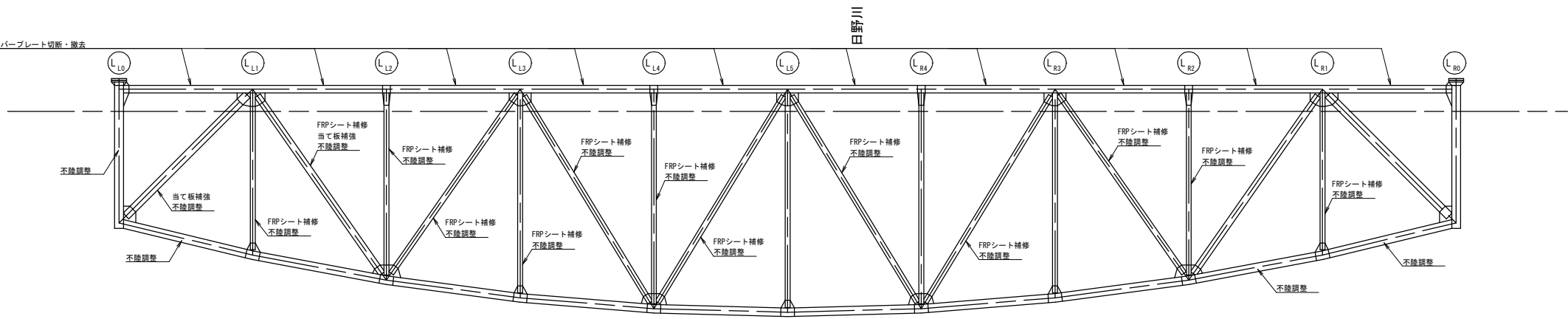
下流側主構側面



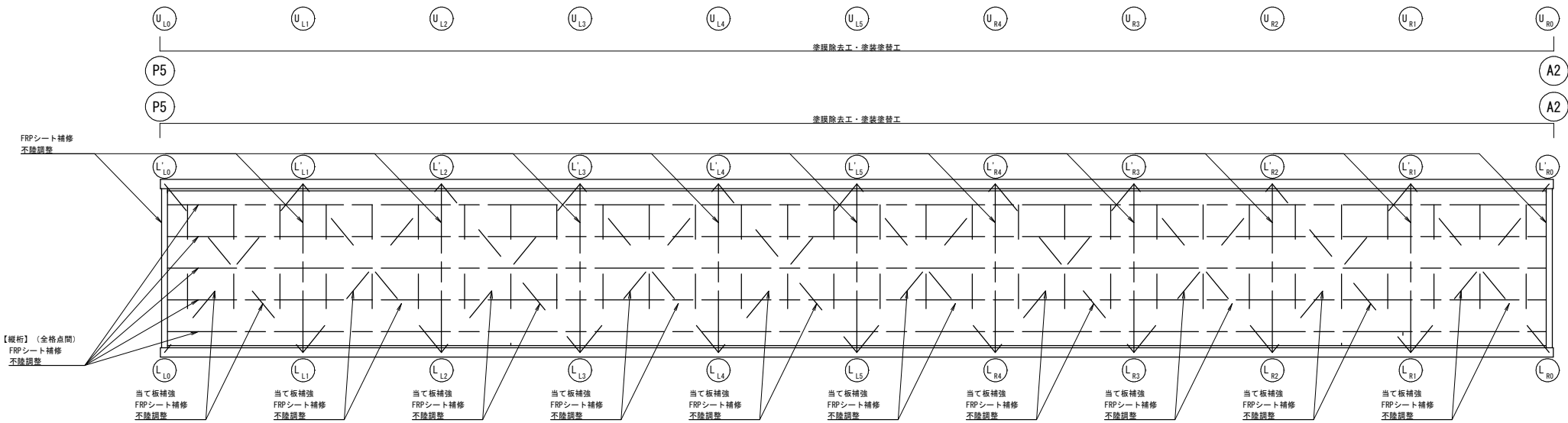
主構上面



上流側主構側面



主構下面



塗装塗替工 A=2,574.6㎡

当て板補強工 A=7.2㎡

FRPシート補修 (区分A) A=7.6㎡

FRPシート補修 (区分B) A=5.9㎡

FRPシート補修 (区分C) A=15.3㎡

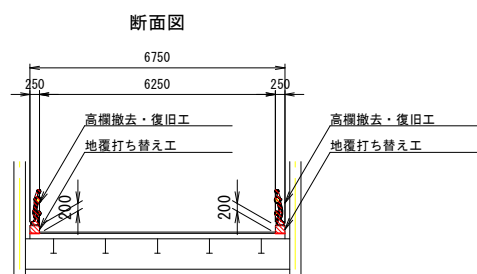
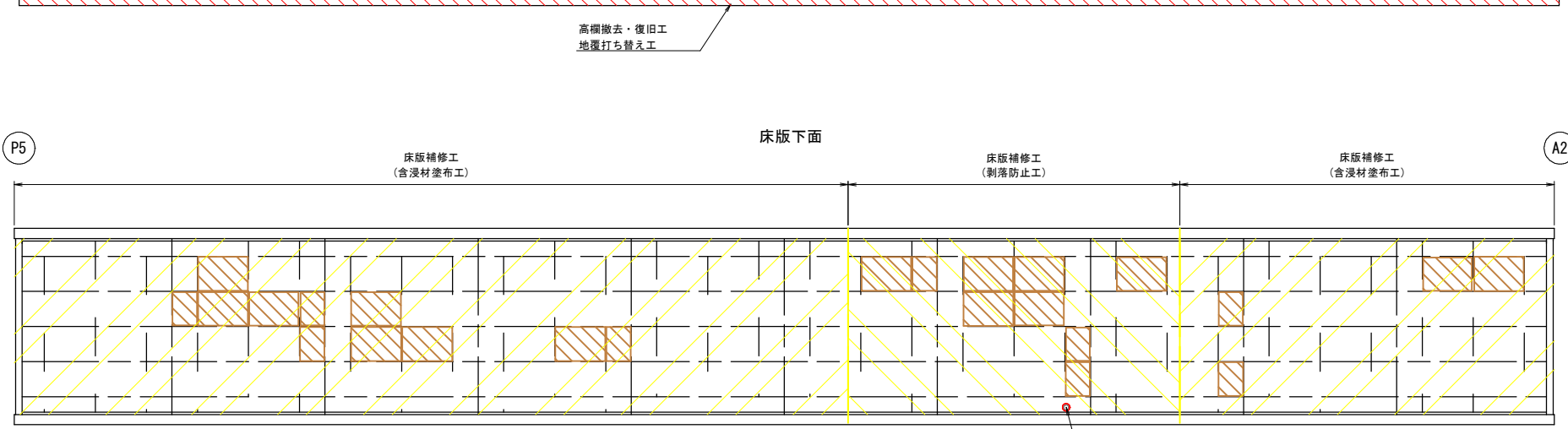
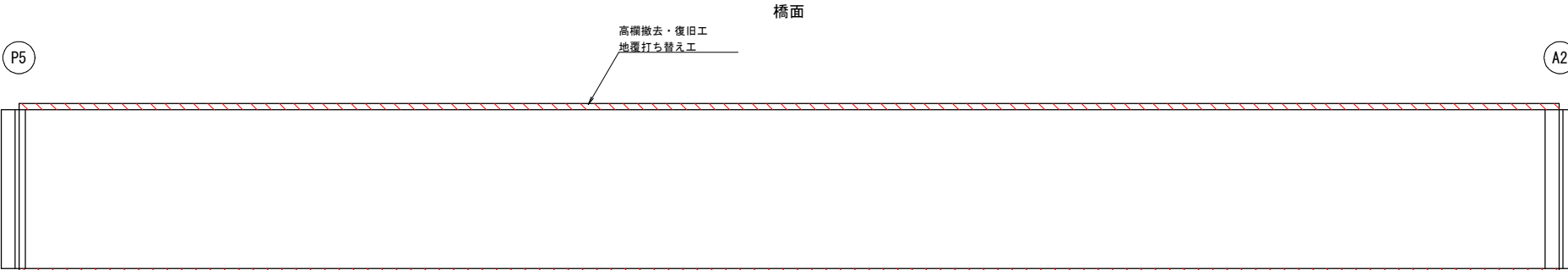
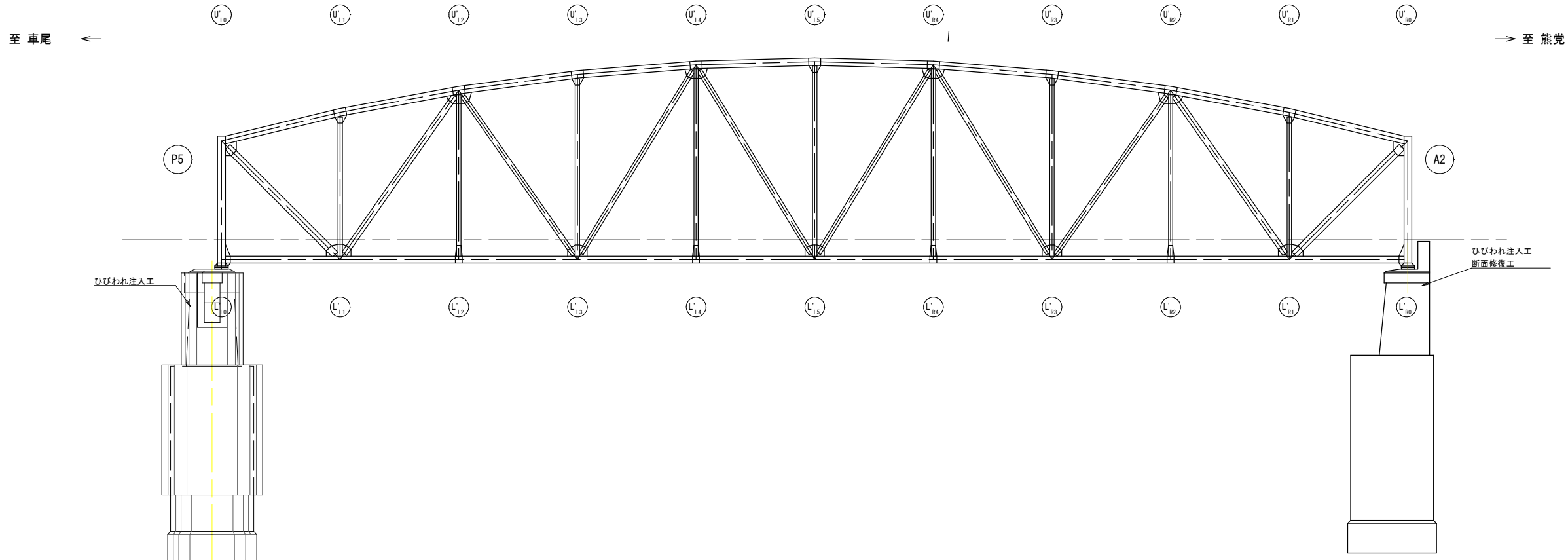
カバープレート切斷・撤去工 L=240.0m

注記

- 補修図は竣工図のヤード・ポンド法単位をSI単位に換算している。現地寸法と異なる可能性があるため、現地確認を行い整合性を確認すること。
- 補修対象箇所・内容は令和3年度点検結果を基にした想定であり、一部以外の詳細調査は実施していない。施工前に損傷状況・形状寸法調査を行ない、監督職員と協議の上、補修要領図を元に補修内容を選択し補修寸法等を設定すること。

日野橋 (車尾日野橋熊党線)			
図面番号	第 14 枚内 5 号		
図面名称	市道車尾日野橋熊党線日野橋 橋りょう補修工事 (その2) 補修一般図 (その3)		
縮 尺	図示 (A3版は表示範囲の1/2に縮小表示)		
製図年月日	令和 年 月 日	監 査 月 日	
承認年月日	令和 年 月 日	承認 月 日	
米子市都市整備部道路整備課			

補修一般図(その4)
第6径間 (下部工・橋面・床版)



高欄撤去・復旧 L=122.0m
はく落防止工 A=67.1㎡
表面含浸材塗布工 A=290.9㎡
断面補修工
(上部工) A=4.35㎡
(下部工) A=2.04㎡
ひびわれ補修工
(注入工) L=17.0m

注記
1. 補修図は竣工図のヤード・ポンド法単位をSI単位に換算している。
現地寸法と異なる可能性があるため、現地確認を行い整合性を
確認すること。
2. 補修対象箇所・内容は令和3年度点検結果を基にした想定であり、
一部以外の詳細調査は実施していない。
施工前に損傷状況・形状寸法調査を行ない、監督職員と協議の上、
補修要領図を元に補修内容を選択し補修寸法等を設定すること。
3. 鋼板接着範囲は床版補修工の対象から除外すること。

日野橋 (車尾日野橋既設線)	
図面番号	第 14 枚内 6 号
図面名称	市道車尾日野橋既設線日野橋 橋りょう補修工事 (その2) 補修一般図 (その4)
縮 尺	図示 (A3版は表示範囲の1/2に縮小表示)
製図年月日	令和 年 月 日
写図年月日	令和 年 月 日
米子市都市整備部道路整備課	

- 塗装塗替工 (鋼板接着範囲)
- 床版補修工 (含浸材塗布工)
- 床版補修工 (剥落防止工)

補修要領図(その1)

補修方針

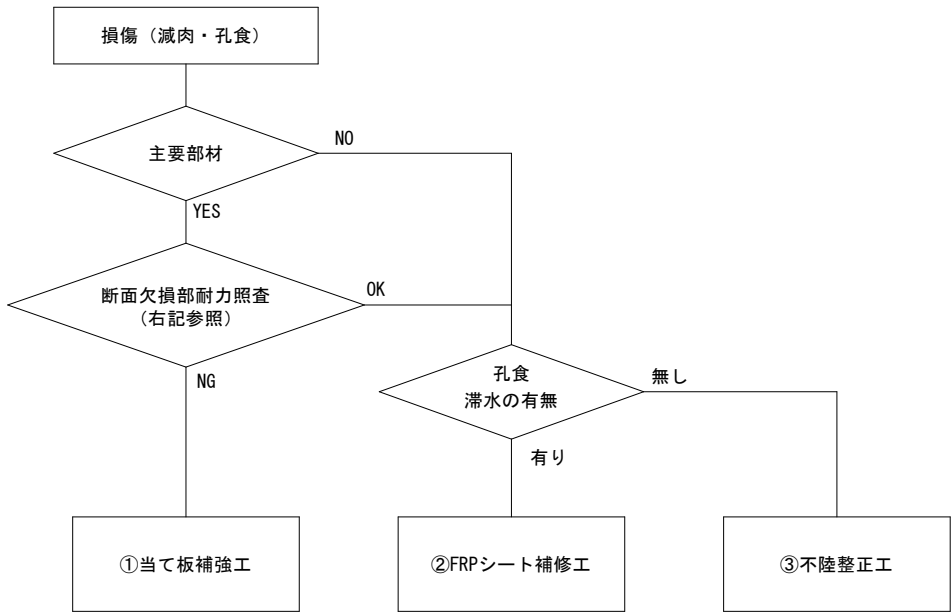
本日野橋補修工事においてはPCBの除去を主目的として、現状利用を踏まえた最小限の補修を行う方針とした。

補修設計実施にあたっては「令和3年度 市道車尾日野橋熊当線日野橋 橋りょう定期点検業務委託」及び詳細設計で実施した一部の詳細調査結果を基に補修部材を推定している。また、詳細調査は補修方針・構造形式の特性並びに橋梁規模より、橋梁全体に足場を設置する補修工事時に実施し、ここに記載された補修要領を基本として補修内容を精査したうえで、監督職員と協議の上、補修数量を確定させる必要がある。

なお、補修要領で示される補修内容は本補修方針に従ったものであり、工事で行う詳細調査結果等に応じて、方針や補修内容・工法等を制限するものではない。

補修工法選定フロー（鋼部材）

下記に主要部材における補修フローを示す。補修形状は詳細調査結果を基に再設定するとともに、副部材については防食機能の復旧・外観成形程度の補修を基本とするが、応力伝達の不良や部材落下等の恐れがある部材については適宜当て板等の構造部材補修を行うこと。



主要部材：上弦材、下弦材、斜材、垂直材、横桁、縦桁

二次部材：その他鋼部材

その他留意点

- ・排水装置より漏水が見られる場合には、漏水箇所を特定しコーキング等による止水を行うこと。
- ・ガセットPLの孔食が著しく美観を損なう場合にはFRPシート等で穴埋めを行うこと。
- ・ボルトの緩み・抜け落ちにも配慮し、必要に応じてボルトの取替等を行うこと。
- ・伸縮立ち上がり部においてバックアップ材の損傷等が確認された場合には、シール処理を行う等の対策を講じること。

断面欠損部耐力照査

断面欠損部耐力照査は、現況寸法実測により把握した損傷の範囲と状態から各部材・部位の欠損断面積（ $B \times \Delta t$ ）を算出し、余裕断面積 A_m と比較をすることにより行う。

なお、余裕断面積 A_m とは、各部材・部位が許容できる断面欠損量のことである。

欠損断面積が余裕断面積を超過する場合は、部材・部位に期待する耐力を満足しないものとして、当て板補強工を実施する。

$B \times \Delta t > A_m$ … 当て板補強工

$B \times \Delta t < A_m$ … （一般部）不陸整正工、（孔食部 or 滞水部）FRPシート補修工

ここに、

B = 腐食幅

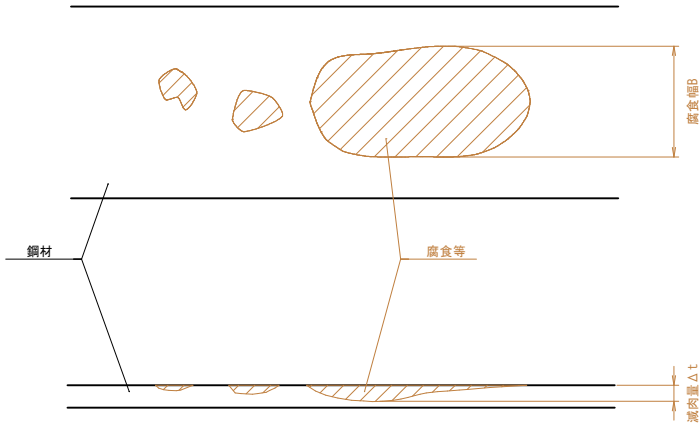
Δt = 減肉量

$B \times \Delta t$ = 欠損断面積

A_m = 余裕断面積

主要部材以外のその他鋼部材と付属物については、孔食の有無や滞水の生じやすい部材により補修内容を決定し、監督職員と協議を行うこと。

概念図



- 注記
1. 補修図は竣工図のヤード・ポンド法単位をSI単位に換算している。現地寸法と異なる可能性があるため、現地確認を行い整合性を確認すること。
 2. 補修対象箇所・内容は令和3年度点検結果を基にした想定であり、一部以外の詳細調査は実施していない。施工前に損傷状況・形状寸法調査を行い、監督職員と協議の上、補修要領図を元に補修内容を選択し補修寸法等を設定すること。
 3. 綾構及びガセットプレート等は、主要部材の対象外とし、二次部材と扱い、当て板補強工を行わないことを基本とする。なお、二次部材に著しい損傷が確認された場合には、監督職員と協議の上、補修内容を決定すること。
 4. 詳細調査においてリベット及び高力ボルトの脱落およびゆるみは見られない。補修工事においてリベット及び高力ボルトの損傷が見られる場合は監督職員と協議の上、リベット及び高力ボルトの取替を実施すること。

日野橋（車尾日野橋熊当線）	
図面番号	第 14 枚内 7 号
図面名称	市道車尾日野橋熊当線日野橋 橋りょう補修工事（その2） 補修要領図（その1）
縮 尺	図示（A3図は表示縮尺の1/2に縮小表示）
製図年月日	令和 年 月 日
写図年月日	令和 年 月 日
米子市都市整備部道路整備課	